

### 惣ヶ池遺跡の概要

- ・和泉市鶴山台 4 丁目に所在する弥生後期の高地性集落。
- ・1965～66 年に、鶴山台団地開発に伴う事前調査によって、弥生時代後期の竪穴住居や平地式住居が検出され、約 3 万㎡の面積を有す和泉地方屈指の高地性集落であることが判明。
- ・遺跡の保存問題が大きく取り上げられ、和泉市議会も 1968 年 2 月に、和泉市の三大弥生遺跡の保存要請を決議。
- ・こうした結果、遺跡の一部が鶴山台惣ヶ池公園として現況保存され、現在に至る。
- ・平成 25 年には鶴山台惣ヶ池公園改修工事に伴う発掘調査が実施され、遺存状態の良い竪穴住居 4 棟などが検出。また、鉄鏃を含む鉄器が出土。
- ・平成 26 年 3 月 26 日に鶴山台惣ヶ池公園部分が市史跡に指定。

### 信太 5 号線整備に伴う発掘調査

- ・信太山丘陵里山自然公園整備に伴う信太 5 号線整備に先立ち、埋蔵文化財包蔵地にかかる部分の発掘調査を実施（R3.7～9 月）。
- ・本発掘調査において、竪穴住居が見つかるなど、質・量とも充実した成果。これまで考えられていたより集落規模が大きいことが判明。
- ・なかでも、泉州で初となる青銅鏡が出土したことが特筆される。青銅鏡は、直径 7cm 程度、厚み 1mm 程度で、弥生時代小形仿製鏡（仿製鏡：国内産の鏡）といわれるものである。鏡背面の文様は、擬銘体（前漢時代の鏡に書いてある漢字を模したと考えられる記号）が記されており、その外側に斜行櫛歯文（斜めの細かい線）が施されている。また、縁の幅が狭いことなどから弥生時代後期前葉（今から 2000 年ほど前）のものとみられる。これは近畿でも最古級のものであり、泉州では唯一のものである。
- ・青銅鏡は出土後すぐに取り上げ保存処理に出した。保存処理は令和 3 年度末までの予定。

### 信太山丘陵里山自然公園活動拠点施設建設に伴う発掘調査

- ・昨年度、試掘調査をおこなった結果、弥生時代の遺構が検出されたことから、R3.8 末～10 初に発掘調査を実施
- ・本発掘調査では、信太 5 号線と同様、竪穴住居などがみつかるなど、惣ヶ池遺跡の集落規模を再考しなければならない貴重な資料であった。
- ・検出した竪穴住居は、直径約 10m を測る。和泉市内で確認されている竪穴住居の中でも最大級（最大は観音寺山遺跡で確認された直径 11m）である。また、中央炉の付近には炭や焼土が多量に広がるため、居住とは別の用途を考えなければならない。
- ・その他、近現代の遺構として陸軍が掘削したと考えられる塹壕跡が良好な形で残存していた。



写真1 信太5号線整備に伴う発掘調査 全景写真



写真2 信太5号線整備に伴う発掘調査検出 竪穴住居



写真3 信太山丘陵里山自然公園拠点施設開発に伴う発掘調査 全景写真



写真4 信太山丘陵里山自然公園拠点施設開発に伴う発掘調査 竪穴住居



写真5 小型仿製鏡出土状況



写真6 小型仿製鏡出土状況

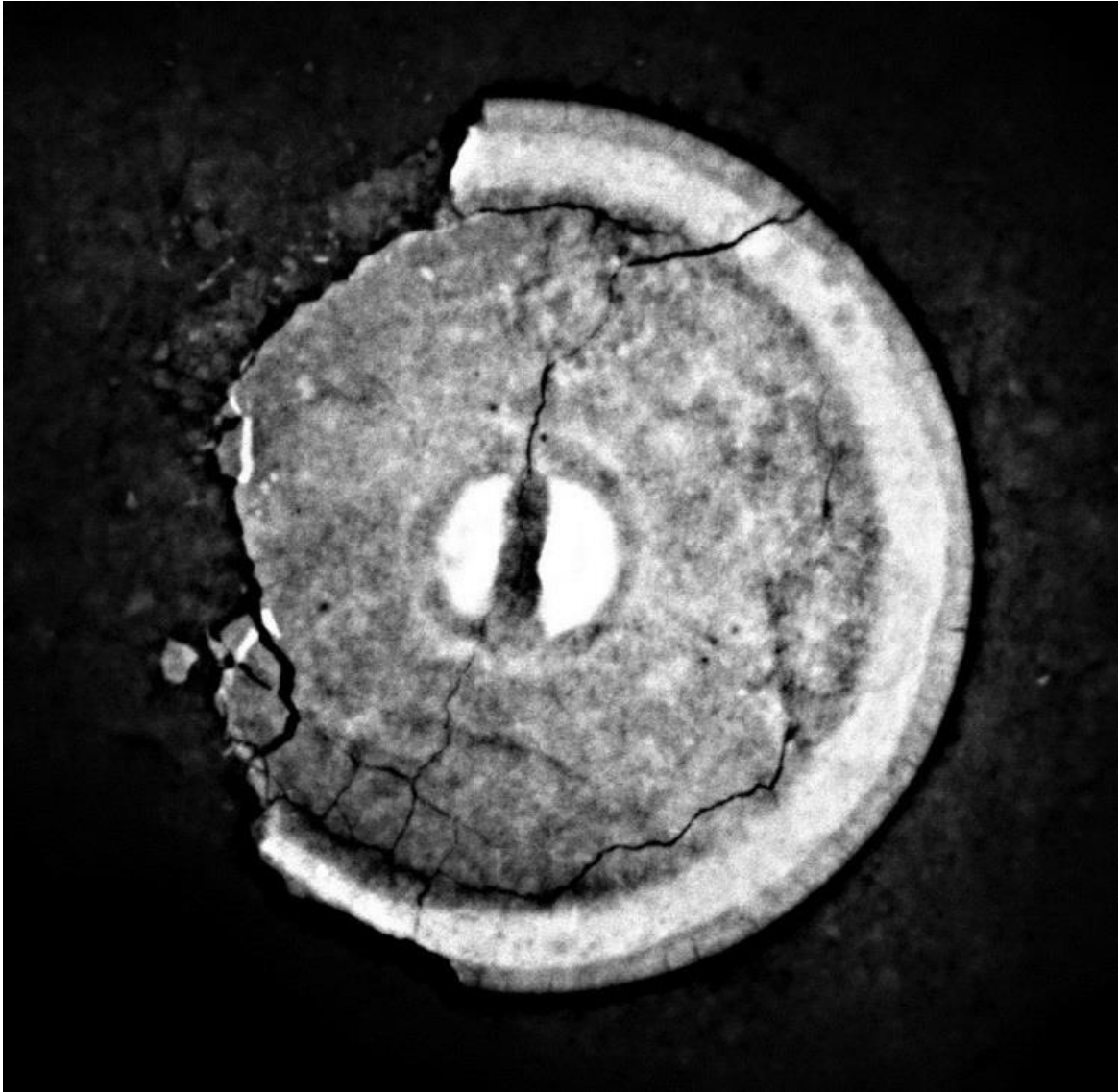


写真7 小型仿製鏡 レントゲン写真